

令和5年10月11日 地震調査研究推進本部 地震調査委員会

鳥島近海の地震活動の評価（案）

- 鳥島近海（鳥島から南西に約100 km）では、10月2日以降、10月8日までにマグニチュード（M）6.0を超える地震が4回発生するなど、地震活動が活発な状況が継続していた。9日04時台から06時台までは震源が決まらないものも含めて地震が多発したものの、それ以降は地震活動は低下しているように見える。一連の地震活動のうち最大の地震は、10月5日に深さ約10 km（CMT解による）で発生したM6.5の地震で、発震機構は、東北東-西南西方向に張力軸を持つ正断層型で、フィリピン海プレート内部で発生した地震である。
- また、一連の地震活動のうち、10月5日に発生したM6.5の地震により、伊豆諸島の八丈島八重根で0.3m（速報値）の津波を観測した。また、10月9日5時25分頃に発生した地震は、地震規模は小さかったと考えられるものの、八丈島八重根で0.6m（速報値）の津波を観測するなど、伊豆・小笠原諸島や千葉県から九州・四国地方にかけての沿岸で津波を観測した。
- 今回の地震発生領域とは異なるものの、これまでも鳥島近海（鳥島から北北西に約110 km）では、例えば2015年5月3日にM5.9の地震により八丈島八重根で0.6mの津波を観測したほか、千葉県から沖縄県にかけての太平洋沿岸で微弱な津波を観測している。このほか、1984年6月13日にM5.9、2006年1月1日にM5.9、2018年5月6日にM5.7の地震により津波が発生するなど、10月9日の地震と同様に、M6.0程度以下の規模にもかかわらず津波を観測している。
- この地域では、比較的規模の小さな地震でも津波が発生していることから当面の間注意が必要である。